

栗原の稲作通信

令和2年第6号 令和2年7月22日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

□出穂期 | 北部平坦・中生品種は「8月2日頃」の見込みです（古川農試, 7月3日現在）

□葉いもち防除 | いもち病が発生しやすい条件が続いており、防除情報第3号(7/17)が発表されました。発生を確認したら、直ちに、茎葉処理剤で防除しましょう。

□穂いもち防除 | 予防防除のため、水面施用剤による防除を行いましょう。

□草刈り | 出穂10日前以降（7月下旬以降）は控えましょう。

■気象経過

- 7月以降、気温及び日照時間は平年より少なく推移しています。

東北地方1か月予報（東北太平洋側）

予報期間：7月18日～8月17日 令和2年7月16日仙台管区气象台発表より抜粋

特に注意を要する事項

期間の前半は、日照時間が少ない状態が続く見込み

予想される向こう1か月の天候

期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多く、期間の後半は天気は数日の周期で変わる見込み。

向こう1か月の日照時間は平年より少ない確率50%（気温は平年並の見込みです）

■生育経過 ～ 5月上中旬移植のひとめぼれでは減数分裂期に達しています ～

●生育調査ほ(移植)生育状況生育状況（7/20現在）

- 草丈：平年並 ・ 茎数：やや少ない ・ 葉色：濃い
- 葉数・幼穂長：平年より少ない・短い

生育調査ほ調査結果（7/20現在）

品 種	地区	田植日	草丈(cm)				茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
			本年	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	築館	5/6	74	108	99	466	74	85	12.2	-0.2	-0.6	38.2	6.7	3.3	105	-58	-76	
ひとめぼれ	若柳	5/20	73	108	99	624	92	99	11.4	-0.2	-0.7	42.4	7.6	8.4	11	3	-28	
ひとめぼれ	一迫	5/13	68	108	98	406	73	80	12.2	0.9	-0.2	39.4	3.3	3.9	26	-49	-63	
ひとめぼれ	平均	5/13	72	108	99	498	80	89	11.9	0.1	-0.5	40.0	5.9	5.2	47	-35	-56	
つや姫	築館	5/23	65	112	94	459	82	87	11.3	0.7	-0.4	44.7	2.9	5.0	1.6	0.9	-1.9	
だて正夢	築館	5/21	82	114	-	519	101	-	11.2	-0.4	-	43.8	9.2	-	2	-10	-	
萌えみのり	金成	5/9	79	115	111	568	116	114	12.2	0.7	0.0	48.3	3.9	7.4	34	-1	-10	

注) 平年値は過去5年平均値とする

●直播展示ほの生育状況（7/20現在）

- 葉数及び幼穂長から判断すると、出穂期は前年より4日早い、8月9日頃の見込みです。

直播展示ほ調査結果（7/20現在） *べんもり湛水直播（点播）

品 種	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)		幼穂長(mm)	
	本年	前年差	本年	前年比(%)	本年	前年比(%)	本年	前年差	本年	前年差	本年	前年差
萌えみのり	5月8日	5日早	59	111	547	57	10.4	0.9	36.9	-0.7	2.8	2.5

■今後の管理

●生育ステージの把握 ～ ほ場ごとに幼穂長を確認して生育ステージを把握しましょう～

幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	3～12cm	-10～0cm	15～10日

地帯別生育ステージの予測（7/3現在、古川農業試験場）

地帯区分	田植始期～終期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/2～5/19	7/2～7/11	7/12～7/21	7/31～8/7
西部丘陵	5/7～5/26	7/5～7/16	7/15～7/26	8/3～8/12

*「ひとめぼれ」「ササニシキ」を対象に、各生育ステージの幅を各地帯区分の田植始期～終期で予測

●追肥

- ・極端な葉色低下により玄米品質が低下するので、品種ごとに適切な追肥を行いましょ。
- ・有機入り肥料を追肥に使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので早めに施用しましょ。
- ・一発型肥料を基肥に使用した場合でも、例年葉色が低下しているほ場では追肥を行いましょ。

追肥時期の生育量と追肥量の目安

*生育量が目安の範囲内～下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm）			減数分裂期（幼穂長3～12cm）		
	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470～530	37～39	1kg	450～500	35～37	1kg
ササニシキ	—	—	—	550～580	32～34	1～1.5kg
つや姫	550～580	35～37	2kg	—	—	—
まなむすめ	580～600	35～37	2kg	—	—	—

★だて正夢の追肥量（窒素成分量/10a）

- ・基本は「減数分裂期2kg」
- ・幼穂形成期に1kg追肥をした場合は、「減数分裂期1kg」

だて正夢の生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	64～70	76～82
茎数 (本/m ²)	390～460	380～420
葉色 (葉緑素計)	40～42	37～39

*「だて正夢」は「ひとめぼれ」等の他品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にありますが、生育量が表の目安を超えている場合を除いて、追肥を行いましょ。

●水管理

・幼穂形成期以降の基本的な水管理は右の表のとおりです。

幼穂形成期以降の水管理

生育ステージ	水管理
幼穂形成期	中干し終了→走り水で徐々に入水
～穂ばらみ期	間断かんがい ※倒伏が心配される場合は飽水管理
出穂始～穂揃期	浅水管理
登熟期	間断かんがい※出穂30日後に落水

◎低温時の水管理

・幼穂形成期～減数分裂期にかけて、日平均気温20℃以下が続く場合、最低気温が17℃以下となる場合は、障害不稔の回避のため、深水とします。

◎高温時の水管理

- 出穂後に高温が続く場合、白未熟粒により品質が低下するおそれがあります。
高温時には、以下のような方法で可能な限りの対策を取りましょう。

出穂後の高温時水管理

昼間深水・夜間落水管理	午前9～10時頃にかんがい、気温が水温を下回り始める午後4時頃に落水
保水管理	走り水や飽水管理により、常に土壌を湿潤状態に保つ *常時湛水より夜間の地温が下がる

●病害虫防除 ～ 管内で葉いもちの発生が報告されています ～

*発生量等は発生予報第7号（概要版）（宮城県病害虫防除所・7/22発行）に基づいています。

▷【いもち病】 | 防除情報第3号が発表されました(宮城県病害虫防除所・7/17発行)。

- 7月上旬の日照時間は、平年比44%(アメダス仙台)と少なかったことから、**稲体のいもち病に対する抵抗力低下が懸念されます。**向こう1か月も日照時間が少ないと予報されています(仙台管区气象台 7月16日発表)
- 7月5日以降、広域的に感染好適日が連日出現しています。現在、病斑が見られなくても、**今後現れる恐れがあります。**
- 特に、**ひとめぼれ、ササニシキ、萌えみのり等のいもち病に弱い品種や、直播栽培、飼料用米、WCS稲等の葉色の濃いほ場**では、注意して観察し、発生が確認された場合は、下記を参考に防除を行いましょう。

いもち病防除

- 穂いもち予防のため、適期に水面施用剤による防除を行いましょう。
- 「葉いもち」が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤による防除を行いましょう。
- 「穂いもち」防除を茎葉散布剤で行う場合、出穂直前、穂揃期、その7～10日後の3回実施しまししょう。

▷【紋枯病】 | 発生量は「やや多」の予報

- 要防除水準を超えた場合は、穂ばらみ期から穂揃期に防除を行いましょう。
前年発生が多かったほ場では、特に発生状況に注意が必要です。また、高温多湿で発生が増加します。
要防除水準：穂ばらみ期の発病株率 ひとめぼれ18%・ササニシキ20%

▷【稻こうじ病】 | 発生量は「平年並」の予報

- 銅剤による防除適期は、出穂10～20日前です。穂ばらみ期に降雨日数が多いと発生しやすくなります。

▷【斑点米カメムシ類】 | 発生量は「平年並」、水田侵入始期は「8月第1半旬」の予報

- 出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。**
- 薬剤防除は、「穂揃期+その7～10日後」の2回防除が基本です。
本田内にイヌホタルイやノビエが発生している場合は、1回目の薬剤散布を出穂始に早めましょう。

【イナゴ類】 | 発生量は「多」の予報

- 大きくなってからの薬剤防除は効果が低下するので、多発している場合は速やかに防除しまししょう。